

# 安定した農業を続けるために

現在、農業における従事者の高齢化と減少、人手不足、離農等が長期にわたって問題となっており、葉摘みや玉回し、反射シートの敷設が難しいと言った労働力面の確保問題を抱えている。補助労働力の掘り起こしも行っているが、需要に追いついていないのが現状だ。

それに加え、秋の残暑による果面ヤケ、低温発現が遅い事による着色遅れ、春の天候不順による着果不足や摘果遅れからくる隔年結果による収量不安定等の問題が生じている。

当JAではりんご産地として抱える諸問題を少しでも解消し、安定したりんご生産を維持することを目的に、管内生産者で構成された果樹産地強化プロジェクトチームを立ち上げている。

諸問題を解消し、組合員の所得向上に向けた環境作りに努めるため、品種構成、省力化や品質向上、特産果樹栽培、補助労働力確保に向けた取組、放任園解消に向けた

取組の観点から検証を行っている。

平成31年2月6日、第1回目の会議が開かれ、5つの事項に対して具体的な内容を洗い出し、問題点と解決策を模索した。参加した生産者は、普段から感じている考えや生産者同志で話し合っている意見などを話し合い、問題点の骨子案を作成した。それを元に各種データを照らし合わせ、検討を重ね、管内や県外への視察を踏まえて、解決策を精査した。

そして、プロジェクトチームは約2年間の中間問題解決のための3つの策を提案する事とした。

## 提案する3つの策とは

- ① 早生・中生種における赤色品種の選果着色の見直し
- ② 推奨した着色優良系統の更新に係る苗木への一部助成
- ③ 簡易栽培サンふじの創設

この3つを当面のりんごの取扱



当管内でも園地を視察し優良系統を精査した



問題解決の為会議を行う会員ら



県外の温暖な地域でも着色度合いを確認



試食を行い食味重視も考えた会議



生産者に配られた冊子



過度な葉摘みが果面ヤケや果実の軟質化に繋がる

いの柱として進める事を決め、先日冊子としてりんご生産者に配布された。  
 今回はその内容を説明していきたい。  
 ① 8月～9月の赤色品種の選果着色の見直しの実施  
 これまで、早生・中生種の赤色品種の葉形や枝形の部分に色を入れる事で残暑が厳しい時は日ヤケが多発したり、着色を待つことで、果実の軟質化や油上がり等の品質が悪くなったという事例があり、生産者を悩ませた。このことから

消費者は、早生・中生種の品種で真っ赤なものは果実が柔らかく、日持ちしないという印象を持っているようだ。  
 そこで当JAではこれらの問題を改善する為、恋空、サンつがる、さんさ、未希ライフ、早生ふじ系において、鮮度と価格を重視し、葉形や枝形の範囲が果形の4分の1以内であれば「特選」、4分の1以上であれば「特」に選果する事とした。  
 この選果の見直しにより早生・中生品種の軽微な葉形や枝形をあまり気にせずに着色管理が出来る

ほか、色付きを待つことでの果実の軟質化や油上がりも防ぐことができる。  
 そして何より、早期入庫、前進出荷で多くの早生・中生種が硬さを保ったまま滞りなく選果・出荷され、11月のサンふじの選果に支障をきたす可能性が少なくなる事が大きなメリットとなる。  
 8月～11月までは選果場も人手不足となっている為、イフココンテナや木箱入庫と合わせて、前進出荷態勢を整えていきたい。  
 ※詳しい色や葉形等は「今後のりんご取扱」p.3で確認できます

強い日光が当たり続けると



令和2年に多発した日焼け果

## ② 着色優良系統への品種更新

現在、ふじやつがるの中でも普通系の品種の取扱いが多い。普通系は葉を摘む量も多く、早めに葉摘みや反射シートの設置などの着色管理を行わなければ十分な色付きが期待できない。

少しでもこの作業に係る時間を軽減させるため、着色優良系統への更新を進めていく。

プロジェクトチームが選定した着色優良系統は、ひらかつがる、うまじろう、宮美ふじ、紅虎、コスモふじ、平成美人の6品種である。この選定した品種に関しては、1本あたり500円を助成し、生産者の着色管理の軽量化と品質の底上げを図る事とした。

※ただし当JAのりんご出荷組合員であり、購買課経由で購入した者に限りです。

※年間で上限が500本までとなります。

## ③ 労力を軽減する為の簡易栽培サンふじの創設

近年では、春先の凍霜害や開花期の強風等の自然災害や人手不足での摘果遅れによる隔年結果等の



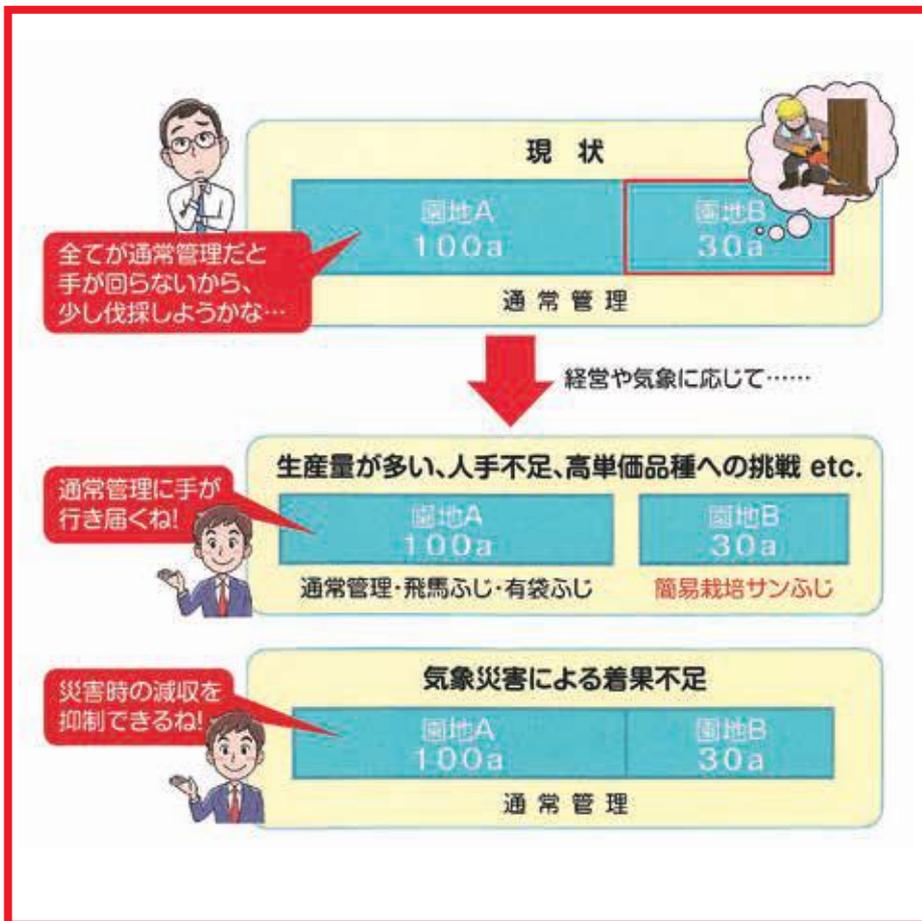
ひらかつがる  
着色系早生つがる



紅虎  
温暖化に対応した早期着色系ふじ



うまじろう  
暖地での気象条件でも着色高評価



要因で収量が不安定となっている。令和2年のように、極端に生産量が多ければ栽培管理に手が回らないといったことで木の伐採等を考えずしてしまつ。しかし、令和元年のように収量が極端に少ない年が再び来れば、更に収量が減る状態に陥る。そこで、問題の解決に繋げるた

めに設けたのが「簡易栽培サンふじ」である。簡易栽培サンふじとは剪定、薬剤散布、摘果のみを行い、葉摘みや玉回し等を省略することができ、「生産量がまた多くなったら手が回らない」「人手が無くなったら困るから木を伐採しよう」「飛馬

ふじや有袋ふじに挑戦したいが人手が無い」などと考えている生産者に、面積を減少させずにりんご栽培を持続出来るように設定したのが「簡易栽培サンふじ」である。

### 「簡易栽培サンふじ」と「葉とらずサンふじ」の違い

当JAでは、葉とらずサンふじは出来るだけ着色管理を行うようをお願いしている。その為、内枝の葉摘みや玉回し等の時間が必要となる。しかし、簡易栽培サンふじでは着色管理を行わなくても良い為、他のサンふじ等の着色管理に余裕が出来る。

但し、簡易栽培サンふじを扱うにあたり注意しなければならぬことがある。

簡易栽培とは最低限の手取りを確保するための手段であり、あまりにも手間を省略してしまうと加工の割合が高くなって、収入が激減する。そして薬剤や人件費などの経費の方が多くなり、経費割れを招いてしまう可能性がある。

下の2枚の写真は、同じ年に植えたこまちふじ（わい化/15年生）である。樹冠外部であれば着色良



剪定により日が十分に当たった葉とらずりんご



枝が込み合い着色が進まない果実

好（左）であるが、中枝の日があまり当たらない場所（右）はほとんど着色していない。  
よって、生果の割合を高める為にも支柱入れや簡易栽培サンふじを視野に入れた剪定、前述した苗木助成を利用した着色優良品種への更新等、簡易ながらも所得をあまり落とさない努力を講じる必要がある。

葉とらずりんご  
(生果)

カットりんご等  
(加工)

ジュース用  
(加工)

入庫された生果はJAが選別

入庫方法は、上実やクズ込みの生果と大きいツル割れや生傷等の加工の2種類とし、山選果での手間も簡素化している。

その後JAが選果し、葉とらずりんご、カットりんご用やジュース用などの加工に選果される。

今後予想される天候不順や急な人手不足などに備え、簡易栽培サンふじを組み合わせてリスク軽減を図って頂きたい。

今回の3つの取組により、早生・中生種では新鮮な果実を出荷し、同時にサンふじの出荷となる11月の選果態勢を早々と整える事が可能となる。そして着色優良系統の導入により、高品質高単価りんご生産に取組むことが出来るほか、簡易栽培サンふじを導入したとき、品質の底上げにもつながる。

生産者によって抱える問題は様々である為、3つの取組を上手く組み合わせ、所得向上を目指して頂きたい。

また、プロジェクトチームはこの策に留まらずに新しい取組みも視野に入れながら、新品種の選定や技術の提案を今後も行って参ります。